

ライティング指導におけるホームページの利用

英語科 浅見 道明

I はじめに

お茶の水女子大学附属高等学校での英語ライティングは、2年次必修科目の英語IIの自習課題として教科書のみが与えられ、定期試験にその問題が出題される。また、その続きとして、3年次に2単位選択科目が設定されている。

平成16年度の3年生は教科書に『Unicorn English Writing』[文英堂]を用いた。2年次にPart 1の文法項目別の英作文を自習課題とし、3年次にPart 2のパラグラフライティングを指導した。

平成16年度3年生の選択者はWriting 1クラスが21名、Writing 2クラスが8名であった。

3年生の選択科目である英語ライティングでは、生徒にほぼ毎週あるテーマでB5用紙1枚程度のエッセイを書かせた。そのエッセイをイギリス人のALTが添削し、私が添削する2重のチェックを実施した。評価はエッセイをcontent, grammar, comprehensibility, mechanicsの4項目で、各5点の20点満点で評価した。

エッセイのテーマと指導内容を示すと、以下のようになる。

- 1) Let me introduce Miss Kate Moran, our new teacher.
(新聞記事のように関係代名詞の非制限用法を用いて長い文を書く練習をする)
- 2) Party invitation (空間的順序に従って自宅までの行き方を書く)
- 3) Sports can be divided into some categories. (分類の仕方)
- 4) Proverbs (例示の仕方)
- 5) Real pets are better than virtual pets. (比較の仕方)
- 6) Low birthrate in Japan will affect our future. (原因と結果の書き方)
- 7) Death penalty should be banned. (主張の書き方)
- 8) Recipes (手順の示し方)
- 9) Business Letter (公的な手紙の書き方)
- 10) Five day school week has been introduced. (本格的なエッセイを書く)
- 11) School uniform is necessary. (本格的なエッセイを書く)
- 12) Movie Review (Dead Poets Society)

(時間の順序に従って映画の内容について書く)

13) Mobile phones have both good points and bad points. (本格的なエッセイを書く)

14) Men and Women should have equal roles. (本格的なエッセイを書く)

15) The person in history who deserves the most respect (本格的なエッセイを書く)

平成16年度のライティングではお茶の水女子大学附属高等学校のホームページを利用して、生徒のエッセイをクラス全体に読ませる試みを実施した (<http://www.fk.ocha.ac.jp/users/chako/essay.htm>)。また、担当する2クラス間で「死刑の是非」についてのエッセイコンテストを実施し、お茶の水女子大学生生活科学部1年生30名に審査員になってもらった。

II 研究の目的

1. 生徒のエッセイをお茶の水女子大学附属高等学校のホームページに掲載することにより、今まで生徒個人と教師の間だけで読まれていたエッセイをクラス全体で共有する。そして、エッセイに教師以外の読み手ができることで書く意欲が高められるか調べることである。
2. エッセイをホームページに掲載するために生徒が2回同じテーマで書くことにより自分の間違いを確認できるか調べることである。
3. クラス全体でエッセイを書き、担当2クラスの間でコンテストを実施して、学校以外に読み手を作ることにより生徒の書く意欲が高められるか調べることである。

III 研究

生徒にホームページへの掲載が受け入れられるかを1学期末と2学期末の2回アンケートを実施して調べてみた。以下がそのアンケートの結果である。

1. ライティング授業アンケート1学期末

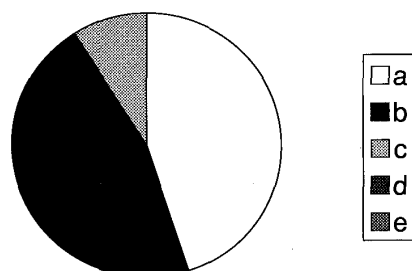
ライティングの授業について以下の質問にa~eの基準で答えさせた。

a~eの基準は以下の通りであった。

- a. とてもそう思う b. そう思う c. どちらとも言えない
d. そう思わない e. 全くそう思わない

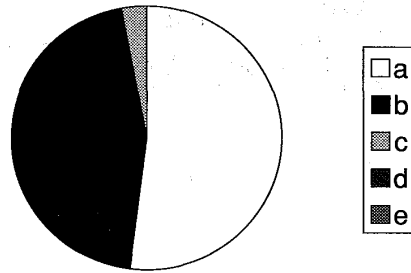
1) ライティングの授業は役に立つ

a : 45% b : 48% c : 6% d : 0% e : 0%



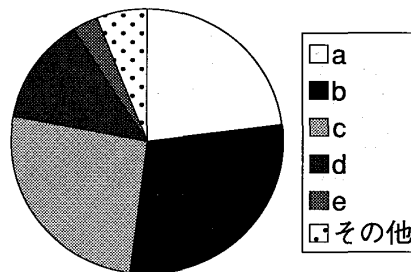
2) ライティングのエッセイの添削は参考になった

a : 52% b : 45% c : 3% d : 0% e : 0%



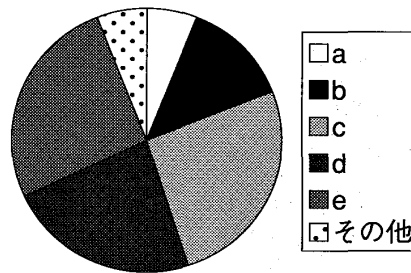
3) 自分のエッセイをHPに記載するため、もう一度書き直すことは自分の間違いの確認になった

a : 23% b : 29% c : 26% d : 13% e : 3% その他 : 6%



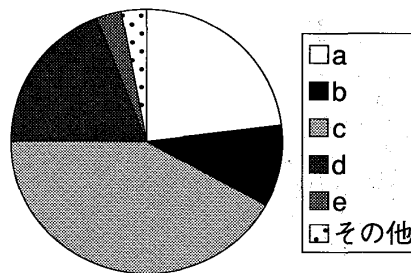
4) 自分のエッセイをHPに掲載することで、より真剣にエッセイを書こうという気持ちになった

a : 6% b : 13% c : 26% d : 23% e : 26% その他 : 6%



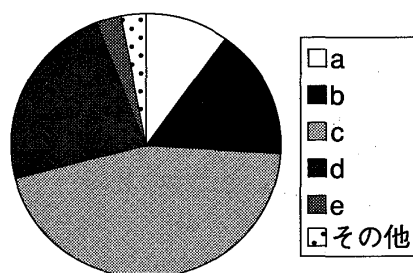
5) クラス間でエッセイのコンテストを行うことは興味深かった

a : 23% b : 10% c : 42% d : 19% e : 3% その他 : 3%



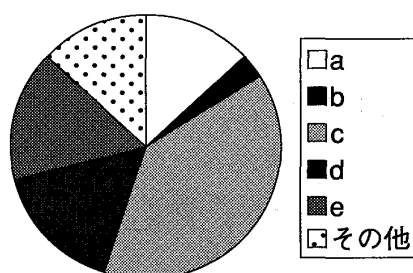
6) クラス間でエッセイのコンテストを行うことは役に立った

a : 10% b : 16% c : 45% d : 23% e : 3% その他 : 3%



7) 高校生以外の人 (大学生) に自分たちのエッセイを読んでもらうことは励みになった

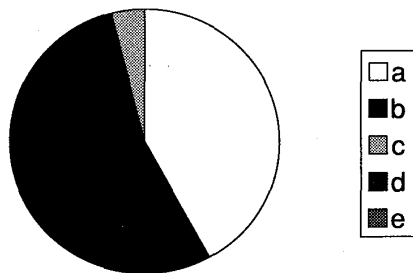
a : 13% b : 3% c : 39% d : 16% e : 16% その他 : 13%



2. ライティング授業アンケート 2 学期末

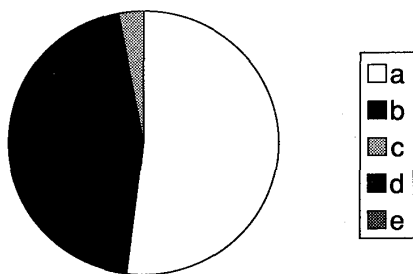
1) ライティングの授業は役に立つ

a : 42% b : 54% c : 4% d : 0% e : 0%



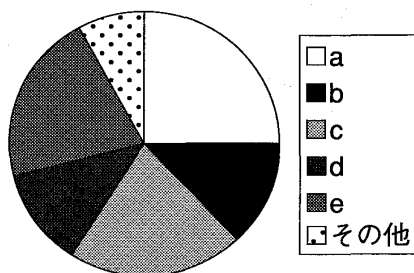
2) ライティングのエッセイの添削は参考になった

a : 52% b : 45% c : 3% d : 0% e : 0%



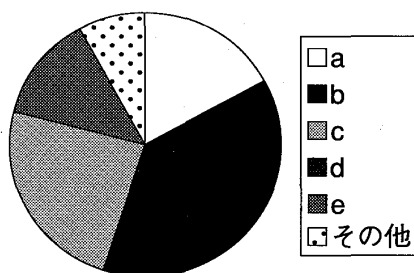
3) 自分のエッセイをHPに掲載した

a : 25% b : 13% c : 21% d : 12% e : 21% その他 : 8%



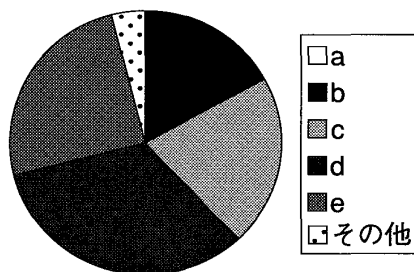
4) 自分のエッセイをHPに記載するため、もう一度書き直すことは自分の間違いの確認になった

a : 17% b : 38% c : 24% d : 0% e : 13% その他 : 8%



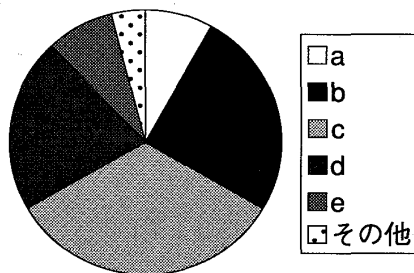
5) 自分のエッセイをHPに掲載することで、より真剣にエッセイを書こうという気持ちになった

a : 0% b : 17% c : 21% d : 33% e : 25% その他 : 4%



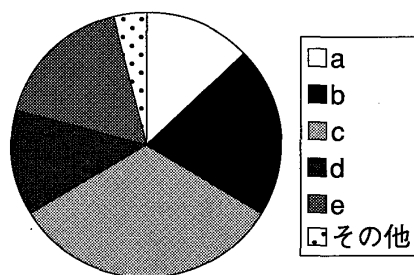
6) クラス間でエッセイのコンテストを行うことは興味深かった

a : 8% b : 25% c : 33% d : 21% e : 8% その他 : 4%



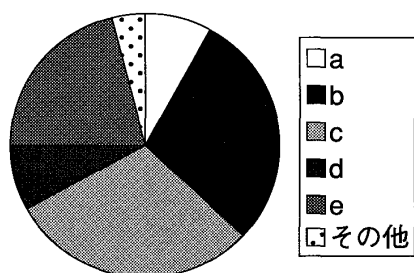
7) クラス間でエッセイのコンテストを行うことは役に立った

a : 13% b : 21% c : 33% d : 13% e : 17% その他 : 4%



8) 高校生以外の人(大学生)に自分たちのエッセイを読んでもらうことは励みになった

a : 8% b : 29% c : 30% d : 8% e : 21% その他 : 4%



IV 考察

ライティングの授業が役に立つかという質問には1学期93%、2学期96%の生徒がそう思うと答えている。また、エッセイの添削は参考になったかという質問には1学期97%、2学期97%の生徒がそう思うと答えているので、ライティングの授業は成功であったと考えられる。

しかし、ホームページに掲載するためエッセイを書き直すことが間違いの確認になったかという質問には1学期52%、2学期55%の生徒がそう思うと答えている。また、自分のエッセイをホームページに掲載することでより真剣にエッセイを書こうという気持ちになったかという質問には1学期19%、2学期17%の生徒がそう思うと答えているので、ホームページを利用して書く意欲を高める実験は生徒には受け入れられなかったようである。生徒の感想から、受験を前にした3年生にワープロを使ってエッセイを清書させることは負担だったことが理由のようである。

また、クラス間エッセイが興味深かったかという質問には1学期33%、2学期33%の生徒がそう思うと答えている。これもあまり生徒のやる気を喚起できなかったようである。理由としては、クラスでエッセイを書くと一部の生徒のみが参加して、大部分の生徒は何もしなかったからということであった。

クラス間エッセイが役に立ったかという質問にも1学期26%、2学期34%の生徒がそう思うと答えており、これも同じ理由からであった。

高校以外に読み手ができることは励みになったかという質問には1学期16%、2学期37%の生徒がそう思うと答えている。1学期には大学生からの反応が返ってこなかったが、2学期には反応があっ

部の生徒の刺激になり、数字が増えたようである。したがって、この実験は一部の生徒に対しては成功であったように思える。

1学期のアンケートが終わった時点で、ホームページに掲載することに対して肯定的な意見が少ないのは、掲載する生徒が少ないからではないかと考え、2学期のアンケートには自分のエッセイをホームページに掲載したかという質問を加えた。その結果、わずか38%の生徒しか参加していないことがわかった。受験をひかえた3年生に同じエッセイを2回書かせることを強制できなかったことが原因であろう。2回書かせることが必ず役立つと話して、きちんと掲載させるべきであったと反省した。

しかし、自分のエッセイをホームページに掲載したという生徒が9名いたが、そのうちの6名が書き直しが間違いの確認になったと答えているので、まじめに課題をこなした生徒には同じエッセイを2回書くことがほぼ受け入れられていると考えられる。

以上が実験の結果であるが、次回ライティングを担当するときは、またホームページを利用して、同じエッセイを2回書かせる試みを実施したいと考えている。